2024 年 11 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【11 月の気象】

11 月の季語に「芋煮会」があります。県内各地で芋煮会が盛大に開かれると思います。また、11 月の季語「小春日和」と呼ばれる春のように暖かく穏やかな日もありますが、西高東低の冬型の気圧配置になると、大陸から寒気が流れ込み、北西の季節風が吹き、肌寒い日もあります。日々の温度変化は大きくなり体調を崩しやすい季節ですので、健康管理には留意が必要です。

松山地方気象台では冬の季節現象を観測していますが、早い年では 11 月後半に、初霜、初雪、初氷及び初冠雪を観測しています。

第 1 表　ここ 3 年間の初霜、初雪、初氷、初冠雪の観測日

寒候年	初霜	初雪	初氷	初冠雪
2024年	1月9日	12月17日	12月23日	11月18日
2023年	1月3日	12月19日	12月20日	12月2日
2022年	1月10日	12月17日	12月26日	11月24日

＊寒候年:前年 8 月から当年 7 月までの 1 年間です。例えば「2024 寒候年」とは、2023 年 8 月から 2024 年 7 月までの 1 年間です。

ここ 3 年以前の松山地方気象台における冬の季節現象はこちら

https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/kansoku/kisetsu.html

【気象用語】「生物季節観測」について

11 月の季語に「紅葉」があります。松山地方気象台では、生物季節観測として「かえで」「いちょう」の紅葉（黄葉）、落葉を観測しています。

生物季節観測は植物の状態が季節によって変化する現象を観測し、その結果により季節の遅れ進みや、気候の違い・変化を把握するために行っています。

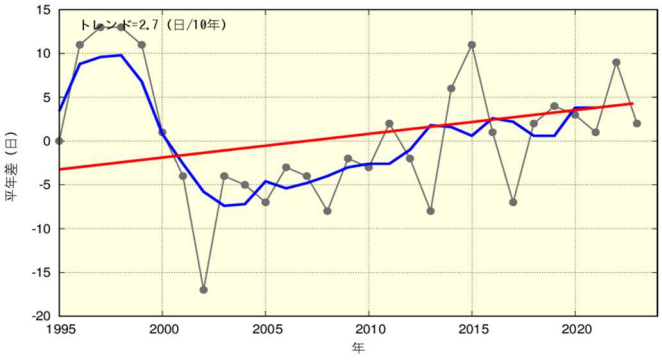
松山地方気象台では 6 種目 9 現象を観測しています（第 2 表）。その中でも「さくら」の開花の観測は皆さんご存じと思います。「さくら」の開花は注目度が高く発表時には道後公園の標本木の周りに多くの報道機関が集まります。

先にもお話ししましたが、紅葉の観測として「かえで」があります。気象台構内に「かえで」の標本木があります。「かえで」の観測は 1954 年から始めています。1960 年後半から観測をしていない時期がありますが、1989 年より観測を再開し、現在まで続いています。図 1 は「かえで」の紅葉日の平年差（平年は 12 月 5 日）を 1995 年以降で抜き出しています。「かえで」の紅葉は遅くなる傾向があり、10 年で 2.7 日遅くなっています。

生物季節観測は、気候変動の影響を色濃く反映しており、近年、開花は年々早まり、紅葉（黄葉）は遅くなる傾向があります。しかし、このまま、地球温暖化が進めば、違う傾向となる可能性があります。今後も生物季節観測を通して、気候変動が植物に与える変化を注意深く見ていく必要があります。

第 2 表　松山地方気象台の観測種目及び現象

種別	観測種目	観測する現象
植物	さくら	開花と満開
	いちょう	黄葉と落葉
	かえで	紅葉と落葉
	うめ、あじさい、すすき	開花



第 1 図　かえでの紅葉日の経年変化（1995 年～2023 年）

赤線:変化傾向　黒線:各年の開花日（平年差）

青線:5 年移動平均